

第 28 回目 愛のうちに成長する教会



はじめに

● 前回も前々回もお話ししましたが、パウロが教会について述べる場合に、明確な三つの点があります。それは右図にあるように、「一致」「多様性」「成長」です。今回も、「キリストのからだ」としてたとえられた「教会の成長」ということについて考えます。

【新改訳改訂第3版】エペソ人への手紙 4章 16節

キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わせられ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。

● ここには、キリストのからだとしての教会について二つのたとえがあります。

(1) からだを建て上げる(建築用語)

(2) からだの成長(生物学的用語)

子どもから大人へ、あらゆる点において成長する

● エペソ書ではどちらかという、生物学的な意味での「成長」について力点が置かれています。4章 16節の前にある 12～15節にも、「達する」とか「大人になる」とか「キリストの満ち満ちた身たけまで」といった生物学的な「成長」を表わす用語がいたるところに使われています。ちなみに、同じ使徒パウロの「コリント人への手紙」では「成長」ということよりも、建設的な意味での「建て上げる」ということが強調されています。

1. 自然、人間のからだは完成された有機体

● イエスは神の世界、神の国の真理について語られたときに、しばしば「自然界にあるものをたとえとして使われました。「自然から学ぶ」ためです。「自然から学ぶ」ということは、神の創造の神秘から学ぶという意味です。そして、神の創造の神秘から学ぶということは、創造者である神から学ぶという意味でもあります。パウロは自然よりも人間のからだのたとえをよく用いました。

(1) 自然、人間の体は完成された有機体。

(2) その本源は、三位一体なる神にある。

(3) 教会も有機的な存在として、神によって成長し、建てられる。

・ ・ ・ いまだ完成されてはいませんが、やがて確実に完成される。



(1) 自然は完成された有機体(一体性と多様性)

אגרת שאול אל האפסים

●イエスはマタイの福音書 6 章 28 節で「野のゆりがどうして育つのか、よくわきまえなさい。」と言われました。「よくわきまえる」とは、以下のことを意味します。

- ① よく考えてみることです。
- ② 注意して観察することです。
- ③ 熱心に学ぶことです

●ちなみに、ここでいう「野のゆり」あるいは、「野の花」と訳されますが、どんな花のことをいうかといえますと、右図のようなとてもすてきな花々です。このような美しい「野のゆりがどうして育つのか」考えたことはありますか。イエスは花の美しさを見よと言われているのではなく、ここではどうして育つのか、どうしてこんな美しい花が育つのか、表面にみえることだけではなく、見えない部分にも目を留めるよう促しているのではないのでしょうか。野の花の美しさではなく、その成長のメカニズムについて学びなさい。よく観察しなさい。研究しなさい。学びなさい。ということなのです。それは「成長する」ということを正しく理解するためなのです。



●また、イエスはこうも言われました。「良い木はみな良い実を結ぶが、悪い木は悪い実を結びます。」(マタイ 7 章 17 節) つまり、自然は実を結ぶように設計されているのです。前にもお話ししましたが、二年間、私は石山に通い、樹木や野の花、キノコ、生き物の写真を撮り続けました。そこには実に多くの種類の樹木(高木、中高木、低木、つる性の木本)、そして樹木以上に種類の多い野草、その蜜を吸う昆虫、その昆虫を食べる鳥、林床内のさまざまな生き物たち、キノコの類、また目に見えない土の下にいる多くの生き物たち(ミミズなど)、そして微生物たち、そうした相互依存のかかわりが成立しているすばらしい雑木林(森)を作っています。この石山はかつて 80 年前頃、一度、多くの木が切り倒されています。しかしその結果、より多くのものが忍び込む機会ともなって、種類の多い樹木、野の花、キノコ、生き物たちがこの中で生きているのです。森全体が成長し続けているのです。このような豊かな森となるために、人為的な手を加えなかったということが重要なのです。

●キリストのからだとしての教会の成長も、実は、同じことが言えるのではないのでしょうか。私たちがなにか人為的な方策によって成長させようとするならば、おそらく健全に成長することができないような「いのちの神秘」というものが教会にはあるということなのです。

(2) 人間の体も完成された有機体(一体性と多様性)

●人間のからだも実に多くの部分(器官)からなっています。それぞれ別々に働いているのではなく、他の器官と密接な関連をもって働いています。

●血液の中に血小板といわれるものがあります。空気に触れると固まる性質があります。この血小板の数が少ないと、からだのどこかをちょっとぶつけただけでも内出血を起こします。逆に血小板の数が多いと脳にある毛細血管が詰まったりします。血小板の数や血液の濃度はその人の生活習慣によって異なりますが、本来、体は正常

אגרת שאול אל האפסים

に保とうとします。しかしそのバランスが崩れる時、からだに異常が起こります。人間のからだは完成された有機体であるというのは、さまざまな部分が、それぞれ微妙なバランスをとっているということなのです。健康なからだというのは、そのバランスがとれている状態を言います。ところが、私たちの生活習慣、あるいは外から侵入するウイルスなどによって原因不明の病気になったりもします。それを改善するために、医者の方が必要となってくるわけです。

●よく甘いものを摂り過ぎては良くないと言われます。なぜでしょう。糖分は私たちのからだに働くために必要なエネルギー源です。それがなければ私たちのからだは働きません。しかし、糖分を過剰摂取することによって、血液の中の血糖値を下げるためにインシュリンという物質が過剰に分泌されることとなります。それは血液の中の糖分を適当な値にするためです。ところがそうした糖分を摂りすぎる生活の習慣を続けていると、単に体が太るだけではありません。インシュリンが異常に分泌されるようになって、今度は逆に血糖値の低下を招くようになります。そうするとどうなるか、立っているとすぐに座りたくなったり、朝からあくびばかりしたり、集中力がなくなったりします。神経過敏になり、怒りっぽく、疲労や無気力、脱力感、めまい、不安、不眠、といった症状を示すようになると言われてます。

●よくお腹がすくと、怒りっぽくなったりします。それは血液の糖分が少なくなることで、蓄積してあった脂肪を糖分に変えるためにアドレナリンという物質が分泌されるためだそうです。・・・甘いものを過剰に摂取する生活習慣は、私たちのからだの仕組み、バランスをおのずと崩して行くことになるようです。からだは病むと心までも病むこととなります。こうした微妙な関係について私たちは無知なために、自ら、知らずに、体を不健康にすることがあるのではないのでしょうか。お菓子には大量の糖分が含まれています。ある調査結果によれば、糖尿病になった人の食事とお菓子の量を調べると、ほとんど変わらなかったそうです。

2. 愛による教会の成長

●さて、聖書に戻りましょう。もう一度テキストを見てみましょう。

4章 16節

キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わせられ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。

(1) 関節の果たす働き

◆このテキストで今回、注目したいことばは、まず「備えられたあらゆる結び目」ということばです。この「結び目」とは一体何なのでしょう。この箇所をいろいろな聖書で読み比べてみましょう。

①Living Bible 「このキリスト様の指揮下で、体全体がみごとに組み合わせられ、各器官はそれぞれ特別な方法で他を助けます。それは、体全体が健康になり、成長して、愛にあふれるためです。」

②柳生訳「キリストは頭であり、われわれはその体である。体は頭なるキリストと結びつくことによって、調和ある全身を形成するのであり、また緊密に結び合わされた各器官がそれぞれの役目を果たすことによって、体全体が成長し、かつ、愛

のうちに育っていくのである。」

「備えられたあらゆる結び目」(新改訳)

「あらゆる節々」(共同訳)

「すべての節々」(口語訳)

「特別な方法で」(LB)

「緊密に結び合わされた」(柳生訳)

●これらのことばは、人間の体に置き換えると「関節」を意味します。関節の働きの最も重要な働きは、「人間理解の能力をもち、愛をもってかかわること」ではないかと考えます。

①建前や本音、弱さ・・・をよく汲み取れる人

②その人のありのままを受け入れ、その人の立場に立ってどうかかわれば良いかを考えることのできる人(能力)

●関節の働きの背景にあるものは「知識」と「愛」です。いずれも必要です。愛のない「知識」は人を傷つけます。反対に、知識のない愛は「盲目」です。正しいバランスが必要なのです。知識も愛も、現実に生身の人間とかわることを通して得られます。医者にとって臨床が不可欠のように、私たちも具体的なかわりなしに知識も愛も成長しません。関節としての働きを担うことはできません。

●この二つがあってはじめてキリストのからだとしての教会は成長していきます。人間理解の能力としての「知識」と「愛」の双方が必要です。それがあるとき、教会は自然に、おのずと成長していくと信じます。

それゆえ、使徒パウロは次のように祈りました。この祈りを私たちの日常の祈りとしたいと思います。その祈りとはこうです。

エペソ3章17b~19節

17b 愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、

18 すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどあるかを理解する力を持つようになり、

19 人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができますように。こうして、神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされますように。